



## 選評

選者 高木勇三

皆さんからお寄せいただいた川柳は、どれも優しく温かい秀句ばかりでした。その中から極め付きの優秀作品について解説します。

大賞の「**君投げる雪のつぶてのやわらかさ**」は、「やわらかさ」に若い二人の心模様がうまく投影されています。その場の笑い声まで聞こえてきそうです。

公民館長賞の「**いつ止むの君の心に降る雪は**」は、ドラマの一場面を見ているようです。悲しみに心を閉ざす君への思いが胸を打ちます。

中学校長賞の「**受験生雪が降っても家の中**」は、高校の入学試験を間近に控えた受験生の日常を、雪の日に例えて象徴的に描いています。

小学校長賞の「**雪だるま明日朝にはいなくなる**」の雪だるまは、めったに雪が降らない笠岡だから、あまり大きくないのでしょうか。作る時より、とけてなくなってしまう時を想像したことがみごとでした。

特別奨励賞の「**大あわて雪ですべて転んだよ**」は、久しぶりの雪で大はしゃぎしている子どもたちの様子が目の前に浮かんでくるようです。

二つ目の「**雪だるま一人で作るとさみしいな**」は、雪が降ってはしゃいでいる句が多い中で、逆の視点が斬新でした。「才能あり」です。

三つ目の「**学び舎に春を届けるなごり雪**」は、格調高い言葉で春先の雪の情景を紡いでいます。「なごり雪」は、私たちの住む笠岡では春（三月）が来てから降る雪の意味でいいでしょう。



